
井戸端だより

第 38 号

発行日：2002.6.30

発行：くらしの学習会

もくじ

例会報告

4月例会報告	1
くらしの学習会夜の集い	1
6月例会報告	2

未来の学校像

～夢の学校～学校に対する夢～	3
重信町を離れて	6
ひと味違う自然ウォッチングのすすめ	7
ごみ分別変更によつての戸惑い	9
ほたる	10
町役場の担当者にQ	11
新聞切り抜き	12



例会報告



4月例会報告

4月15日(月)午後2時～ 町民会館

新学期始まって間もないせいか、極端に出席者の少ない例会となりました。

話題は、まず合併問題、そして、7月から始まるらしいごみ分別方法の変更、それと絡んで川内の焼却炉が使えなくなることに伴い重信がごみを受け入れるという話、今後くらしの学習会としてどう関わっていくかについて話し合いました。しかし、人数が少ないため懸案事項となりました。また昼間出られない会員のために夜の会を持つことを確認して散会しました。

くらしの学習会夜の集い

4月23日(火)午後7時～ 林宅

昼出られない会員、あるいは今懸案となっている事項に関して興味を持っている方にも声をかけ集まってもらい、お互い意見を出し合いました。活発に意見が出て、いい会となりました。

合併問題については、町長発言の中で、アンケート結果及び川内側からの積極的な働きかけにより一応川内と合併する方向で努力し、その結果だめなら、松山と、あるいは単独でと言うこともあり得ると言うことがあったので、今合併問題がどの段階にあるかをお互い確認しました。その中で、松山市側が出している合併に関する条件という問題が出てきました。4月の町広報にも載っていましたが、松山市は以下の条件を松山市との合併を望んでいる相手方自治体に要求(判断材料の基本とする)していると言うことです。

- 1.通勤通学、買い物、医療などの生活圏が同じ
- 2.上下水道の整備や保険福祉施策など行政サービスの水準と住民負担が同程度
- 3.組織、人事制度などの行政経営システムが似ているもの

これに重信町の実情を照らし合わせると、難しい点もあるということから、川内との合併を第一に考えていくと言う方向が現実的だという判断も働いたようです。ただ、川内町と合併して市政に移行する場合の法期限が2004年3月末ということなので、かなり急いで進めなければ結果として間に合わないということもあるかもしれないと言うことです。今後の町の情報開示を期待し、私たち町民も自分の問題として考えなければいけないと思いました。

7月から始まるごみ分別方法の変更は、7月から開始するには、住民への周知徹底があまりにもいい加減なのではないかとの意見が出ました。

変更点としては、現在の燃やすごみに出していたものの中から紙ごみ（段ボール・新聞紙・雑誌）を取り出して、紙ごみの収集日に、燃やすごみに出していたプラスチック類（ラップ・プリン・ゼリーの容器・豆腐・卵のパック）とその他の燃やさないごみに出していたプラスチック類（食品トレイ・洗剤シャンプーの容器・弁当がら・カップ麺の容器等）をプラスチックごみとして新たに分別し、その他のごみの収集日に出すと言うことになるのです。

大きな変更と見るか、小さな変更と見るかは見解の別れるところですが、今まで慣れ親しんできた方法を変更すると言うことは、たとえ些細な変更であってもなかなか大変なことです。その点を認識してもらいたいと思います。勿論住民としては、この分別に協力するのにやぶさかではありません。



6月例会報告

6月17日（月）午後2時～ 林宅

6月の例会は大盛会でした。久しぶりに顔を見せてくれた会員もいました。

まず話題になったのは、やはり来月から始まるごみ分別方法の変更のこと。プラスチックごみを新たに分別することで、燃やすごみの総量を減らし、川内のごみを引き受ける道筋を作っているのではないかという意見、合併を前提とするなら、川内町のごみの分別はどうなっているのか知りたいなどの意見が出ました。また、新しい分別方法について、町在住の外国人対象に英訳等を付ける活動をしている若いお母さんたちのグループがあると言う話が出ました。日本人でさえ心配を感じているのに、外国人ならなおさら、大変だろうと思いました。いい活動なので、側面から応援したいと思いました。

次に会員の1人が温めていた計画を聞きみんなで協力することになりました。ジャコアゲハの生態保護のために、みんなでウマノスズクサを植えようと言うことです。早速作業の日時が決まりました。みんなでやれば怖くないと言ったところでしょうか。久しぶりの活動でなんだかうれしくなりました。

もう1件、秋頃犬伏先生に案内して頂いて古い民家を見に行こうという企画です。これも具体的に進めていくことになりました。乞うご期待です。（T. H）

未来の学校像

～夢の学校～学校に対する夢～

皆さんは、新幹線など列車が駅に着く前に音楽が流れることに気がついて
いることでしょうか。

東京に住む子供たちが、その音楽をピアノで再現しながらのおしゃべり。

K：「東海道新幹線の音楽は、何となくホッとさせられるものがあるね。」

Y：「う～ん。長い旅ご苦労様って言っているような感じがする。」

K：「東北新幹線のは、こんな風にもっと軽い感じで・・・。」♪～♪～～

K：「山手線のは、どうも落ち着かないよ。終わり方もすっきりしてなく
て、後味が悪いね。」

Y：「乗客を早く追い立てようとしてるのかなあ。」

K：「確かに、そういう効果をねらっているね。」

子供たちは意外なところに興味を持ち、耳をすませていたり、目を見開く
瞬間があったりするものです。

今、子供たちは日常の何気ない風景の中に何を見出しているのでしょうか。
多くのレセプターを張り巡らせ、さまざまな驚きがあったり、疑問を抱いたり、
自分なりの意味づけを行ったりしていることでしょうか。もしかすると、
そこから大きな感動を呼び起こすことがあるかもしれません。

思い返せば、自分自身が何も感じないまま、「きれいだね。」とか「すごい
ね。」の類を連発し、子供に共感を強要させるなど愚にもつかないことをや
っていたことがありました。自分自身に感動がないのに子供に何かを伝えら
れるはずはありません。

今、学校では教科の枠を取り外した総合的な学習、目まぐるしく変遷を遂
げ日々発展する情報化社会に対応すべく推進される情報教育、小さくなりゆ
く世界に大きな一歩を踏み出すための国際化教育など、かつての教育現場に
は見られなかった新しい教育のあり方が模索され実践され始めています。

それは、一般的な知識の習得ではなく、生涯にわたっての生きる力を育て
るものに他なりません。しかし、その一方で全体的な学力低下が危惧され、
教育のあり方が益々混迷の度を増してきているのも事実でしょう。

この学力とは、一体何を指しているのでしょうか。単純に言い換えれば計算
力・漢字力・文章力・高校・大学受験のために必要な知識量等々でしょうか。

もちろん幅広い知識を身に付けることは大切だと思っています。元来、知識欲の強い子供です。しかし無機的に提供された知識への関心は非常に薄いものです。自らの意志がはたらき、感動を伴って獲得した知識であればそれはその子にいわゆる「知」として定着するはずです。私が考える学力は、子供の興味に裏付けられて発揮できる自己表現能力だと思うのです。

さて、教師の出番。

前述した子供の持つレセプターが何に反応するのかをさぐり、それをいかに敏感に反応させられるか。レセプターで受信した外的刺激からの驚きや疑問をいかに結合させたり組み替えたりして、より体系化させられるか。これからの教師の考えなければならない点だと思います。そして、教師自身がどれだけ様々なものに心を惹かれ、心を動かされた体験が豊富であるか、教師の資質として最も大切な部分であると思うのです。

そこで・・・、10年後の学校の様子をちょっと想像してみませんか？

昨今の IT 革命で教育現場にもコンピューターが次々に導入され、低学年からお絵かきやゲーム、名刺作り等でその操作はお手の物。中学年にもなるとインターネットを駆使して様々な情報を仕入れ、授業に役立てています。外国の子供たちとメル友となり、英語でメールを交換するなどコンピューターへの子供の興味は尽きることはありません。

★ 10年後はこのコンピューターがどのように用いられているのでしょうか。

今、何人かの子供たちがコンピューターと向かい合っている。

画面はアメリカのエシメンタリースクールの授業風景。

もちろんミス・グレイ先生との質疑応答も可能である。

アッシュクスが画面上にアップで映し出された。

お互いに意見を交換しあったり、教えあったりしているのである。

もちろん、こちらの授業も外国の教室に映し出すことができる。



世界各国にネット上の提携校が出来、教室に居ながらにして外国の学校と授業が共有できるかも知れません。そのための英会話は必須条件。子供たちは、休み時間も英語の勉強に余念がありません。先生も子供と共に英語をマスターしようと必死です。

★ 閉鎖的と言われがちな学校も少しずつ地域の中に開かれて来ました。

地域の中は学校では求められない教材の宝庫です。そして、そこに住む人々すべてが教師なのです。

この町の昔は何が栄え、どこにどんな店や建物があつたのだろう。

どんな生活をしていたのだろう。

我ら聞き込み調査隊出動！！お年寄りのお宅を訪問し、昔の話を聞かせてもらったり、写真を見せてもらったり、

昔のおやつをいっしょに作って食べたり歌を歌ったり、

おやおや教育勸語の講釈まで・・・。

今日一日すっかり半世紀前の世界にどっぷり。

お礼にかたをたたいてあげたりお掃除を手伝ったり、

お買い物にも行ってあげたよ。



やはりお年寄りと子供は大の仲良し。恒例になってくるとお年寄りの方々も昔の資料集めに奔走し、なんだか生き生きとした表情になってきました。

★ 子供の興味に応じて選択して受けられる授業もあるようです。

外部からスペシャリストを招いての授業もどんどん取り入れられるようになりました。

今日はヴァイオリンの先生が出張しッスンにまられる日。

しッスンを受ける人は10:30に音楽室に集合。

もうすぐ、近くの中学校や小学校との合同オーケストラ演奏会がある。

ところで、この曲の作曲家は？でこの人？他にどんな曲があるの？等々

疑問は尽きないね。

みんなで手分けをして調べてみよう。

子供は人のすぐれた才能には敏感に反応し、魅了させられます。本物に触れさせる機会をすこしでも多く持つことは、子供自身の持つ才能の萌芽を芽生えさせることでしょう。

10年後と10年前の違い。それは、子供一人一人を個人としてみるか、全体の中の一人としてみるかであると思います。個々の感性に迫り、個々の想いの成就をどれだけ保証できるか。その実現のための教育環境を作り上げていくことが大切なのだと思います。 (R. H)

重信町を離れて

重信町を離れて、松山に住むようになった。新しい生活にもすっかり慣れたが、それと同時に、重信の良い点もまた見えてきた。たった二ヶ月ほどの間ではあるが、私の感想を簡単に述べてみたいと思う。

1. ゴミの出し方について

重信では、金属、ガラス、プラスチック、ペットボトルは分別して、別の袋に入れて出す。それに対し松山は、金属とガラス、プラスチックとペットボトルは同一の袋でよい。分別に慣れている私にとって、松山のやり方は簡単とはいえ、気がとがめる。ゴミ処理業者の方々の働いている様子を見学したこともあり、各家庭でできる分別は行うべきだろう。慣れればそれほど面倒なことでもないのだから。

2. 学校給食について

子どもたちは重信の給食が良かったと言う。松山の給食関係の方も、それなりに努力はされているとは思いますが、パックに入った食品の出る割合が重信より多いらしい。

「やっぱり手作りの方がおいしいし、心がこもっているよ。」とは子どもの弁。やはり、食べるものには手間をかけたい。



3. 子どもの遊び場について

新居の近くに公園があるので、子どもはさっそくボールやバットなどを持って遊びに行ったものの、すぐに帰ってきた。【ボールで遊んではいけません】という看板があるとのこと。「小さい子用の遊具では、もう遊べん。オレはどこで遊べばいいんだ。」と、しばらく遊び場さがしをしていた。結局、ふだんは近くの小さなお宮や、祖父宅の小さな畑などで遊んでいるが、思いきり遊べるというほどではない。小学校のグラウンドにも行くこともあるが、少し遠いので毎日というわけにもいかない。

各自治体に整備された公園ができ安全で楽しい遊具がある。それはそれで、とても良いことだが、普段の遊び場として何も無い小さな野原やグラウンドなどが各小学校区に何箇所かあると、ボール遊びをする子どもなどは、とても助かるだろう。遊具などは何もいないから、管理もしやすいのではないか。そして、防災上も役に立つと思うのだが。これは、まだそれほど過密化されていない重信などは、計画的に実行できるかもしれない。

(E. K)

ひと味違う自然ウォッチングのすすめ

最近、近所の田の畦や神社の森を歩くと、足元に実っている草の実や樹木の枝先についている青い木の実が気になります。青い木の実は秋のお楽しみにとっておくとして、今まさに楽しむべきは草の実です！

いまさら言うまでもなく、植物は自分の子孫を残すために様々な工夫をしています。まあ、植物が意志を持って工夫してきたというよりも、そういう形質を持った植物が生き残ってきた結果であると考えられるわけですが、草の実にもその工夫を見つけることができるのです。

どんな工夫か、とといいますと、種を遠くに運び、自分の子孫の生育範囲を広げるための工夫です。

工夫として一番目立つのは、タンポポでしょうか。

軽くてフワフワの綿毛のついた種は、風にのると遠くまで運ばれます。その上、よく見ると、花が咲いているときよりも、種をつけているときの方が背が高いんですよ。高いところから飛ばした方が遠くへ飛びますからね。タンポポって、すごい！

もう1つ、比較的身近な春の花にカラスノエンドウがあります。

カラスノエンドウはマメの仲間の野草ですが、種が熟すと豆のさやが真っ黒になります。真っ黒になってしばらくすると、今度はさやが2つに分かれて、1つ1つがねじれます。このねじれがポイント！です。さやをねじって、そのねじれの強さで種を遠くに飛ばすのです。当たったら痛そう・・・

そうそう、当たって痛い種がまだありました。スマレです。

濃い紫色の花が私は大好きで、花の時期にずいぶん楽しませてもらっているのですが、種の時期にも楽しんでいきます。スマレの種は3つに分かれた上向きの袋の中に並んで入っているのですが、その袋が乾燥して縮むときに、上に向かってパチッとのはじき出されるのです。ある程度熟していれば、人が触っただけでもはじき出されますから、ぜひ触ってみてください。小さな小さな種ですが、これが面白い！ただし、顔に当たると意外に痛いので、お気をつけください。



ごみ分別変更によつての戸惑い

1997年4月より、可燃ごみ指定袋施行から早5年。この7月より大幅な家庭ごみの分別変更が実施されます。

これまで、可燃ごみとして、プリン・ヨーグルト容器類を入れる事に抵抗を感じながら、自分なりにごみ減量をしてきました。燃やさないごみについては、ペットボトル（極力購入しない）ビン・かん類も分別回収ですので、しっかりリサイクルされていると信じ重信町の回収に出しています。

その他に トレー・牛乳パック・生協卵パック → 生協の回収へ
アルミ缶 → 作業所回収へ

買物袋持参（小さく三角にたたんだスーパー袋を持ち歩く）等結構楽しんで分別しています。これからも続けることに不安はないのですが、今回の変更の中で気になることがあります。

- ① プラスチック類については、今までは、回収されたその他の燃やさないごみ（ペットボトル以外）は川内のオオノ開発で焼却され埋め立て→ 今回のプラスチック類は、特別な設備の工場での燃料として資源になるようです。我が家の可燃ごみの約1/4はプラスチック類です。その中で、ラップ・生もの入っていたポリ袋は洗ってもきれいになりにくく、匂いも取れにくい汚れです。マヨネーズ・ケチャップ容器と同類の汚れだと思えます。これらも月2回の回収となります。これらを洗う為に水を汚し、匂いによって害虫が寄り付き不衛生になるのでは。
- ② お知らせ方法については説明会もなく、広報・正しい出し方ポスターのみで、実施当初は回収されないごみ袋が多く残される事はないのでしょうか。
- ③ 台所のごみ箱も今までは可燃袋だけでよかったのが、プラスチック用の容器を準備しなくてはなりません。場所を取らない工夫が必要です。各部屋の屑入れもごみ出しのたびに分けるのは大変です。家族の協力が大切になります。
- ④ 埋め立て → 資源になるのは前進です。ただ、市町村合併前に、川内町のごみ受け入れの為に焼却場の処理容量不足も影響しているのでは。川内町のごみ分別はどうなっているのかも気になるところです。 (A. M)

ほたる



5月末、知人から「今年、ほたる、見ました？」と電話があった。「いや、まだ、どこに？」「横河原の藤田酒店の角を樋口へ向かっていく川にたくさんいるよ」「ありがとう」と、早速その晩から3日続けてほたる見物となった。

「今年は、5月14日に初めてほたるを見た」「近くの人が、中山川から幼虫を捕ってきて育てている」「10年近く前からとんでいる」とは近所の人話。

私が子供の頃は至る所にほたるはいた。父が麦藁で作ってくれたほたるかごに、ほたる草を入れ、捕りに行っていた。街灯もなく、足元を濡らしながら畦道を年上の子についていったものだった。

久し振りに、ほたるに会えた嬉しさから、20人余りの知人に「ほたる、見た！見た？」と聞いてみた。不思議なことに、誰もその場所にほたるがいることを知らない。その場所は、{井戸端便り第37号川の汚染の現実(横河原)}で紹介された所なのである。

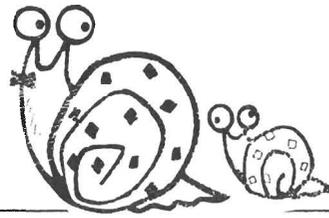
同じ川でこの違いは何なのかと、興味津津、昼間川沿いを散歩してみた。旧国道11号線を挟んで川の環境は上流と下流では格段の差があった。上流(ほたるがいる)は、昔の川の状態が保たれていて、石垣で、細い川の両側は草が繁り、水は冷たく流れは速く、稚鯉が泳いでいる、水田への流出・入はないようだし・・・いかにもカワニナが育ちそうな環境である。生活排水はこの川に流れ込んでいないのか気になり、町の下水道課に聞いてみた。「一軒一軒調べてみないと分からないが、全く流れ込んでないとはいえない」となんともあやふやな答えだった。

一方下流の方はというと、(k・k)さんが指摘していた場所あたりは、悪臭があり、三面コンクリート張りで草もなく、見た目には整備されている。私がウォッチングした6月21日は、川を堰き止め流れを変えていたため、水は流れていなく川底のコンクリートむきだしで、なんとも殺風景だった。旧11号線を横切った川・水はこの場所でまさに変身している。

緑と田園風景の重信町だが、田圃はコンクリートで区切られ、三面コンクリート張りの川から水を引く。小さい生き物が育たない。生き残れない。この世に生あるものは、一つとして無駄なものはない。共存共栄できないものなのかとつくづく思う。

町の近くにオアシスを見つけ、今年の初夏は得をした気分だった。(S・K)

町役場の担当者にQ



Q:田窪駅近くの造成地は何ができるのでしょうか？

田窪土地整備事業として、重信町が窓口になり事務局をおいている。造成後、土地所有者に道路などの共有部分の土地を提供していただき、15年末までに道路・区画割り(150戸ほど)を行い、15年4月から水道・下水道工事を済ませ土地所有者に土地を返した後売り出すことになる。売買は、個々の土地所有者との間で行う。(野田地域と同じ方式)

Q:13年度ごみ処理経費はどのくらいかかったのでしょうか？

燃やさないごみ収集委託料	37, 502, 843 円
燃やすごみ収集委託料	30, 300, 000 円
粗大ごみ収集委託料	17, 446, 800 円
重信クリーンセンター運営費・その他ごみ関係経費	90, 072, 527 円
<u>合計(清掃費決算額) し尿関係経費を除く</u>	<u>175, 322, 170 円</u>

人口一人あたりのごみ処理経費

維持管理費・ごみ関係委託費など・・・ 7, 684 円

重信クリーンセンター建設償還金含む・・・ 10, 452 円

人口一人あたりのごみ排出量

1日・・・760g 一年間・・・277kg

*平成14年度7月から分別が増えることにより、

水銀ごみ処分・紙ごみ資源委託料として 11,160,000 円を計上

*分別したごみのゆくえについては、7月広報に掲載するそうです

川内のゴミ受け入れ

重信町焼却場地元と協定書

温泉郡川内町が同郡重信町に可燃ごみの委託処分を求めている問題で、重信町は二十五日夜、焼却場のある山之内地区と協定書を締結、受け入れを決めた。

川内町の焼却施設のダイオキシン発生量は排気一立方メートル一四ナノグラム、一〇ナノグラム以下の十二月からのダイオキシン規制強化に適合しないため、高性能排煙ろ過装置を備える重信町に二〇〇〇年十二月、委託処分を申し入れていた。

は将来、域内の焼却場を施設への速やかな移行」聞き入れてもらうことなど八項目で構成。協定期間は二年三月三十一日までとしている。宮田克信・山之内区長などの受け入れ条件を話し、「松山ブロックごみ」は「周辺環境の整備など、広域施設完成後の、広域地区側の要望を重信町に一定

温泉郡重信町牛淵の下水道工事現場で環境基準値を超える有害物質「六価クロム」が検出された問題で、県環境審議会化

重信の六価クロム検出

汚染範囲確定へ

地下水を3年間定期調査

県環境審 対策会議

学物質環境保全全部会(部長・近藤郁子愛媛大医学部教授)の委員四人が、二十六日、現地視察をした後、県庁で対策会議を開催。汚染範囲を確定す

力所で一センチあたり三・一ミリグラムの高濃度六価クロムを検出するなど、三カ所で基準値を上回る六価クロムを検出。跡地以外では検出されなかった。

今後の対策については、工場跡地を取り囲む形で、十六カ所での土壌調査を決定。地下五メートルまで、最下層部で検出された場合にはさらに一層下層まで掘り進む。検出した場所では、さらに幅広い調査を行い、汚染の深さ、広さを特定する。

新たにボーリング調査した結果、基準値(一センチあたり〇・〇五ミリグラム)の二・六倍、完了後は三カ月ごと六十二倍の高濃度の六価クロムを検出したことが報告された。

現場の県営牛淵団地東では、松山市に本社を置く企業が一九六五年ごろから七四年まで、メッキ処理工場を操業。ボーリング調査は、メッキ処理工場跡地の県道を中心に、六カ所を地下五メートルまで掘削。うち工場跡地一

重信の下水道工事現場

基準超す六価クロム検出

元メッキ工場跡地



温泉郡重信町牛淵の町一緑色の着色土壌が見つかり、県が十八日、土壌

六価クロムが検出された現場を埋め戻す作業員。後ろは県営牛淵団地。15日、重信町牛淵

を分析した結果、環境基準値（一辺中〇・〇五mg）を上回る〇・二九mgの六価クロムが検出された。現場は県営牛淵団地東で、県道美川松山線沿いの元メッキ工場跡地の一部だった場所。

県は周辺の河川・側溝計四カ所、公園一カ所と三店舗の地下水を調べたが、いずれも六価クロムは検出されなかった。しかし、地下水を飲用に使用する場合は、検査で安全を確認するよう町民に呼びかけている。

県と町では、雨水が土壌に浸透すれば地下水を汚染する可能性があるため、約五平方メートルの町道掘削現場を別の土で覆土し、仮舗装した。これまでに掘削した約六トンの土は、同町役場の旧庁舎で保管している。

今後、▽現場周辺の土壌調査と汚染土壌の除去

「またか」。九年前と同じ現場での土壌汚染を知った温泉郡重信町牛淵の周辺住民らは、一様に地下水などへの影響を不安がり、前回の調査と処理に対し、憤りの声を上げた。

県営牛淵団地の会社員男性（左）は「あの時の調査が怖い」と心配する。

去▽周辺地域の広範囲な地下水調査を行う予定。愛媛大教授らによる県環境審議会化学物質環境保全部会を早急に開き、対策を検討する。

六価クロムは合金やメッキに使用。毒性が強く、皮膚に付着した場合は、やけどや裏死（えし）、吸入した場合は呼吸困難などを起こす。

県環境政策課などによると、十五日、住民から同町に「工事現場で緑色の土壌が見つかった」と通報があった。同現場では過去にも六価クロムが検出されていた。

当時の今回の検出現場も含めた約四百三十平方メートルの土壌を撤去し、業者が無害化処理していた。同課では「処理が不十分だったのではないかとみている。」

現場は、松山市に本社を置く業者が一九七四年までメッキ工場を操業。九三年にも今回の現場を含む県道美川松山線用地から一辺あたり五・九mgの高濃度の六価クロムが検出された。

検出されたため、町と通報を受けた県が調査した。

現場は、松山市に本社を置く業者が一九七四年までメッキ工場を操業。九三年にも今回の現場を含む県道美川松山線用地から一辺あたり五・九mgの高濃度の六価クロムが検出された。

またか地下水怖い 憤る住民

「またか」。九年前と同じ現場での土壌汚染を知った温泉郡重信町牛淵の周辺住民らは、一様に地下水などへの影響を不安がり、前回の調査と処理に対し、憤りの声を上げた。

県営牛淵団地の会社員男性（左）は「あの時の調査が怖い」と心配する。

また、近くの自営業男性（右）は「地区に悪いイメージを持たれない心配。汚染は広範囲にわたっている可能性もある。県と業者は責任を持って、水質だけでなく、周辺の土壌も早急に徹底して調査してほしい」と求

放射線孫の代まで影響

生殖細胞に異常

【ワシントン6日共同】放射線によって起こる生殖細胞異常の発生率は、放射線を浴びなかった子や孫でも、被ばくした親と同様に高くなることを、英国レスター大のグループがマウスを使った動物実験で突き止め、七日付の米科学アカデミー紀要に発表した。

英の大学マウス実験 ▶ 米の病院調査 ◀

証 実 の 大 き さ の リ ス ク

放射線被ばくによる先天異常発生の可能性が、後の世代にまで引き継がれることを示す結果で、グループは「人間への被ばくの影響を考える上で、重要な結果だ」と指摘した。

グループは、生物に与える影響の大きい中性子線と、比較的影響の少ないエクス線をマウスに照射。生まれた子を、放射線を浴びていないマウスに交配、生まれた子（孫）を、被ばくしていないマウスと再び掛け合わせた。そこで、子や孫の精子などの生殖細胞の特定の遺伝子領域に発生する異常の率を調べた。

異常の発生率は、放射線の種類とほとんど関係なく上昇。孫マウスでも放射線を浴びていないマウスのほぼ三倍になって

いることが判明。放射線の影響が、被ばくをした親やその子供だけでなく、少なくとも次の世代の生殖細胞にまで伝わるということが分かった。

グループは「生殖細胞の異常が何世代にも及ぶことは、被ばくによる先天異常発生リスクが、これまで考えられていた以上に大きいことを示唆している」としている。

たばこの煙で子供の能力低下

計算力や理論的思考

【ワシントン7日共同】たばこの煙（副流煙）を吸っている子供は、その量が「くわすかでも、読解力や計算などの能力がわずかながら低下することが、米国のシンナティ子供病院の約四千四百人を対象にした調査で分かった。同病院の研究グループが六日、米国の小児科学会で発表した。

グループは、喫煙経験がなく、副流煙を吸う環境にある六歳から十六歳までの子供、四千三百九十九人を対象に、たばこに含まれるニコチンが体内で分解されてできるコチニンという物質の血中濃度を分析。

さらに、米国で標準とされるテスト方法で、計算力、読解力、理論的思考の能力などを測定。副流煙を吸っていない子供と比較した。

その結果、血中のコチニン濃度が高くなるほど、これらの能力の点数はわずかながら低くなる

ことが判明。コチニンの濃度が血液一ミッドリットルあたり十億分の一以下でも、微量でも、研究グループのキンバリー・ヨルトン博士は「今回の結果は、子供をたばこの副流煙から守るための対策が、いかに重要を示すものだ」と指摘している。

町の環境問題楽しく勉強

重信町が作製した環境学習の副読本



副読本 小学校に配布

— 重信町が作成 —

省エネや動植物紹介

本年度から始まった総合的な学習の時間に利用してもらうこと、温泉郡重信町はこのほど、環境学習の副読本を作製、町内の四小学校の児童約千人に配った。

前年度に策定した「町地域環境行動計画」で定めた「教育のグリーン化」の取り組みの一環。町内の小学校教諭らに原案作成を依頼し、専門家のアドバイスを受けたら、約一年かけて編集した。三・四年生用と五・六年生用の二種類を用

意。中学年向けには、町内の動植物の紹介や、水やごみに関する

身近な環境問題を取り上げた。高学年では、地球環境問題まで範囲を広げ、省エネや水質調査など、児童が主体的に取り組める実践方法を解説。どちらにも写真や図をふんだんに使って、分かりやすくレイアウトしている。町は「町内での環境保護の取り組みを紹介するなど、独自の環境読本ができた。今後、各分野の専門家にも協力してもらい、児童らの活動を積極的にサポートしていきたい」と話している。

榊伊予銀行の地域文化活動助成制度を受けて活動しているグループの活動を紹介する冊子「ふるさとのちからこぼⅡ」に掲載されました

生活文化分野

しげのぶ 重信くらしの学習会

第19回助成 〈推薦店 横河原支店〉

◆代表者 林 智子氏
◆所在地 〒791-0204

温泉郡重信町志津川1199-9

◆設立年月 平成5年1月
◆会員数 46名 (男性5名/女性41名)
◆連絡先担当者 代表者・所在地と同じ

対象となった活動 重信町内の自然観察ガイドブックの作成

自分たちを取り巻く自然環境や生活環境における問題や不安を、自分たちで取り上げ、学習することで、環境を向上させたいという意欲的な主婦層が集まって、自発的に結成された団体。これまでに重信町内の水質調査や泉の観察、樹木や昆虫・メダカの観察会などを実施している。先般、「蝶のワークブック～生物のいる庭づくり～」というガイドブックを作成して、自宅で蝶の呼べる庭を実現してもらうことを目的に、県内中学校を中心に配付し好評を得て、活動内容もますます充実している。

7月例会のおしらせ

日時：7月8日(月)午後2:00～

場所：林 智子宅 (かすみの森での作業は後日となりました)

内容：蝶のビデオ視聴、川内町のごみの受入など最近の問題点